

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500132		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	宜野湾市嘉数4-4-10		
自己評価作成日	令和4年 11月24日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://omotokai.or.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和4年 12月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・独自で生活改善委員会を立ち上げ細かな工夫と生活の改善を今年度試みた ・おもと会のノーリフトケアを導入中。年間計画を立ててスキルアップに繋げている ・出来ての栄養バランスの取れた食事が食べられる ・環境がよく緑に囲まれ目の前が庭になっているため気分転換や筋力低下防止を兼ねた散歩が出来たり、BBQなどの屋外行事が出来る ・隣に老健や小規模多機能があり情報交換が可能 ・施設内様子が外からも見ることが可能であり玄関前でご家族と面会が可能 ・少人数で関わりが細やかかつアットホームで個々人の自由な時間も持てる(自分の部屋を一人ずつ持てる)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、四季折々の自然の風物が観賞できる閑静な高台に建ち、開設から22年が経過している。広い敷地内に介護老人保健施設や小規模多機能型居宅介護、通所・訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所があり、事業所の運営やサービスの提供等で法人と連携した取り組みが定着している。食事は、職員が交替で3食とおやつを作っている。ひな祭りにちらし寿司、お正月にはお節料理などの行事食を作り、利用者の希望に応じて月1回はお刺身等も提供し、職員も同じ食事を摂っている。庭園の東屋でお茶会をしたり、バーベキューを楽しむ機会もある。法人の医療機関との連携や看護師の24時間オンコール体制が構築され、利用者の日常の健康管理や急変時・事故発生時の対応等、安心で適切な医療が受けられる。就業環境面では、資格取得を推奨し、研修については受講料を法人が負担したり、Eラーニングができる環境を整備する等、職員が働きやすい環境や条件を整え、職員のスキルアップやケアの質の向上に努めている。年2回、健康診断を実施し、ストレスチェック(年1回)や必要時のメンタルヘルスケアも行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在理念、職員からアイデアを出し合って新しく作成中	開設時に作成された理念は、「基本理念」と「職員理念」から成っている。利用者が穏やかに笑顔で暮らせるよう職員は日々の支援の中で利用者の声を聞き、コミュニケーション不足にならないよう努めている。開設当初からの「基本理念」について、職員から見直しをしたいという提案があり、利用者にもわかりやすい表現で作成している過程である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は難しかった。定期的な訪問散髪や不定期の外出(自分が住んでいた地域へのドライブ等)、ご家族との面会禁止から緩和は行った	加入している自治会だけではなく、数か所の自治会と地域行事等への参加や交流が行われていた。近隣住民も敷地内の庭園を散歩がてら訪れることもあったが、コロナ禍のため、現在はほとんどの交流が中断している。当事業所で実習した生徒が実習後に来訪し、窓越しで利用者と交流している。地域の方がクーラーの室外機の不具合を知らせてくれ、修理をして大事に至らずに済んだことがある。運営推進会議の地域代表が5名となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来所されたご家族にのみ認知症についてお話する機会を持た		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	FAXでの報告と評価のみ(今年度は未だ)	運営推進会議は、年度初めに関係する委員へ1年間の開催予定を知らせているが、コロナ禍で通常の開催を見合わせている。報告書は令和3年4月～12月分、令和4年1月～3月分、4月～9月分の3回まとめられ、利用者の状況、主な活動や行事、事故や入退院、職員の研修等を報告している。各委員への報告書の送付はなく、行政担当者のみとなっている。外部評価結果は玄関内で公表しているが、議事録は未公表であった。	運営推進会議の意義と役割を全職員で確認し、年6回の定期的な開催(書面開催を含む)、報告書や議事録の整備、委員への配付や送付、議事録の公表が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話での報告とアドバイスは出来ている	市の介護長寿課とは、事故の報告やわからないことに関する質問等で連絡を取っている。市のコロナ対策本部から、人員や備品等の確認があり、マスク・手袋等の感染対策用品の提供を受けている。市主催のキャラバンメイト等、研修案内がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なミーティングでの勉強会、アンケート、おもと園内での共有の勉強会に参加	身体拘束をしないケアについては、契約時に利用者や家族に説明している。法人内の身体拘束廃止委員会が定期的開催され、動画で内容が共有できるシステムになっており、ミーティングでも会議の内容を確認している。身体拘束に関する研修を年に2回実施している。第三者が参加できる身体拘束適正化委員会の開催方法の検討、議事録の整備、職員への周知方法の工夫等に期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なミーティングでの勉強会、アンケート、おもと園内での共有の勉強会に参加	虐待防止マニュアルを整備し、ミーティング等で虐待の防止について周知している。事例資料を基にしたアンケートを実施し、法人内でまとめ、職員の業務の確認や研修等に活かしている。年4回虐待に関する研修を実施し、Eラーニングでも学習できるようになっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時極力時間をとり聞き取りを行っている	利用者の要望等は日頃の生活の中で聞き、「寿司が食べたい」、「海に行きたい」等について、毎月1回は献立に刺身を入れて提供し、ドライブも検討の上、工夫して実施している。家族等からの意見や要望は、面会時や電話等で聞くようにしている。「足浴をしてほしい」、「余暇の時間を楽めるように編み物をさせてほしい」等の要望があり、対応している。面会禁止の緩和について要望があり、方法を工夫し対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで行っている	職員からの意見等は業務を通して聞き、ミーティング等でも意見交換を行っている。「理念の見直しをしたい」、「いろいろな研修を受けたい」、「業務の改善につながるノーリフトについて学習したい」、「各利用者の日課を検討してはどうか」等の提案があり、理念や利用者の日課について見直しに取り組んでいる。業務改善や研修の機会を広げる取り組みも法人と連携して進めている。先輩職員が新人職員の指導を行うプリセプター制度を導入し、職員の教育や相談も行われている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇に関してはおもと会の評価表に基づいて評価、やりがい等については管理者が状況をみて役割を与え向上心に繋げている	「就業規則」は、常勤・非常勤等・パートタイム用が整備され、職員には入職時に配付している。「育児・介護休業規程」も作成され、職員の働く環境や条件を整えている。資格取得を推奨し、研修については受講料を法人が負担する他、Eラーニングができる環境がある。職員は前向きにスキルアップやケアの質の向上に努め、生活向上委員会の取り組みを法人の内外で発表している。健康診断が実施され、ストレスチェック(年1回)や必要時のメンタルヘルスクエアも行われている。ハラスメント防止については、マニュアルの整備や研修を行っているが、就業規則への記載内容の見直しに期待したい。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	おもと会のスキルアップ勉強会や研究発表、施設内でのスタッフ発信の勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おもと会内でPT、ナース、隣接した施設間での協力体制は出来ている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりをこまめに持つことで観察し言葉にならない気持ちを抱う努力が出来ている		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居始めは特に電話や直接会い聞き取りをこまめに行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	都度説明と相談をしながら柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは頑張ってもらい、日常の洗濯たみやもやしのひげとり等の作業は行ってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に変化があった時にはまずスタッフで話し合い、そのあと家族へ相談し一緒に考える機会をもっている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、孫など面会できるよう感染対策本部と話し合い、面会緩和を行った	利用者の馴染みの人や場については、契約時のアセスメントや入居後の本人の話等から把握に努めている。コロナ禍前は、近くにある法人の施設内の売店に通う利用者もいたが、現在は閉店し、買物は控えている。読書や編み物を趣味としていた利用者には、継続できるように支援している。北部や離島出身の利用者には郷土の歌や昔話にふれる機会を提供し、海が好きな利用者の居室には、海のポスターを飾っている。利用者は定期的に入出入りする食材の専門業者の配達員と挨拶を交わしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	休憩時間等利用者同士一緒にソファーに座りおしゃべりをしたり音楽を聞いて過ごしたり出来ている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に施設広報誌やアルバムを郵送したり電話連絡している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在見直しを始めている。利用者一人ひとりのニーズを拾いなおし中(ご家族からの要望も含め)	利用者全員が方法を工夫すれば意思の疎通が可能であり、利用者一人ひとりの思いや意向については、日頃の会話を通して聞き、家族からも聞いて把握している。「本格的なコーヒーが飲みたい」利用者を可能な時期に喫茶店へ案内したり、海が好きな利用者や野菜の直売店に通っていた利用には下車をしないドライブで対応している。今年は利用者一人ひとりの日課の見直しを行いながら、新たなニーズや要望を支援に活かすよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に家族面会時に聞き取りを随時行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に努めている		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在見直しを始めている。利用者一人ひとりのニーズを拾いなおし中(ご家族からの要望も含め)	介護計画については、家族等の意向を来訪時や電話等で確認し、介護職員からの情報提供や意見も集約して計画作成担当者が作成や見直しを行っている。「本人のペースで食事や移動をさせてほしい」という家族からの要望を反映し、安全な食事支援に繋げている利用者がある。長期目標は1年、短期目標を半年とし、モニタリングの結果を踏まえて定期的見直しを行い、入退院等状態変化がある場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ているが介護計画の見直しに繋がっていない為現在改善中		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ている。ご家族と都度一緒に考えて支援を継続している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉用具や福祉車両、居宅支援事業所、訪問診療や訪問歯科、訪問散髪など協力してもらっている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている 先日も義歯の修理の際かかりつけの歯科に訪問診療に来てもらった経緯あり	利用者全員が、これまでのかかりつけ医を継続とし、2人が訪問診療を利用している。定期や他科受診は家族での受診を基本とし、困難な場合には職員が対応している。必要に応じて訪問歯科の利用もある。看護師が作成した情報提供書で結果内容等をファックスで受ける等医師と連携し、健康管理を行っている。利用者全員健康診査も実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行えている 専属のナースをはじめ必要に応じ訪問診療、そして隣のおもと園ナース、本部などの協力体制がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている 事前に家族へ状況説明し、入院先医師、家族、相談員で必ずカンファレンスを開催し納得した上で退居を進めている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてはADLや状態をみながらご家族に説明相談している	重度化や終末期に向けた対応についての指針を作成し、契約開始時や状態変化時に、利用者や家族に説明し同意を得ている。看取りへの取り組み等の研修を実施し、職員間で共有している。看護師が中心となり、母体法人の医師や看護師と連携を図り、看取りを行っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度職員に救急の指導者研修を受講してもらい施設でAEDなどの実践研修を行った	安全管理マニュアルを作成し、職員は日頃から即実践できるようAEDやBLS等急変時や救急時対応の研修に参加している。管理者と看護師が24時間オンコール体制で対応し、緊急時の連絡体制も作成されている。事故、ヒヤリハットの報告書が作成され、事故再発防止検討会議も実施されている。損害賠償保険に加入している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年二回実施出来ている	隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と共同で夜間を想定した避難訓練を年2回行っている。各種災害マニュアルを作成し、自動火災通報装置等や防災設備も整備され、定期点検も行われている。利用者と職員の10日分程度のレトルト食品や乾パン等をキッチンに保管し、カセットコンロや毛布類の備品も準備している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。お互いに評価し合い、出来ていない時は管理者へ報告するようになっている	利用者個々の生活を重視し残された能力が活用できるよう、何度も夜間トイレでの排泄を望む利用者へは奥にあるトイレの横の居室を選定し、プライバシーに配慮した支援を行っている。新任職員の悩みや不安を取り除けるように、プリセプター制度を採用しきめ細かな指導を行っている。個人情報保護方針や利用目的等はファイルし玄関先に設置している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを普段からとり意思表示しやすい雰囲気づくりをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	比較的出来ている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に今まで着ていたもの、好きなものを持参してきてもらっている		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている。近年準備やかたづけは認知症がすすみ頻度は少なくなってきた	法人の管理栄養士が作成した献立を基に、職員が交替で3食とおやつを作っている。ひな祭りにちらし寿司、お正月にお節料理などの行事食や月1回のお刺身等も提供し、職員も同じ食事を摂っているが、現在は感染拡大防止のため、時間をずらしている。利用者は、体調に合わせて下ごしらえや皿洗い等に参加している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている おもと園の栄養士の作成した献立をもとに3食手作りの食事の提供と体調や食思に応じ対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来ている 本人への意思確認と定時誘導を行っている 夜間必要に応じポータブルトイレ使用の方もいる	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握することで、適時声掛けを行いオムツの使用が軽減されている。職員が担当制で歩行訓練やレク体操を実施し、自立に向けた支援に努めている。利用者2名が夜間のみポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール出来ている 専属のナースと連携し必要に応じて排便の処置やかかりつけ医にマグネシウムや水薬を処方してもらっている		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	マンツーマンで入浴支援行っている 曜日で入浴日は決まっているが状態や本人の拒否等があれば柔軟に変更している	週2回午前中の個浴を基本とし、シャワーチェア浴やストレッチャー浴を行っている。本人の体調や希望に合わせて、変更を行っている。入浴を楽しめるよう好みの石鹸やシャンプー等を購入し使用している。脱衣所には、鏡付きの洗面台と畳のベッドがあり、利用者はそこに腰かけて着替えをしたり、ヘヤードライヤーで髪を整えている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人部屋でゆっくり休んでもらっている。以前自宅で使用していたものの持ち込みも可にしている		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容のファイルあり また服薬の際すぐに確認出来る資料を作成中	服薬支援マニュアルに沿って、看護師が配薬を行い、その日の担当職員が、服薬支援を行なっている。2日連続で薬の飲み忘れが発生し、直ぐに看護師と家族に報告した後に、検討会議を開いて薬の設置方法を変更する等対策に取り組んでいる。これまで薬箱に入れていたが、配膳台から見えるように薬をクリップで吊るして、全員で確認できるように変更し、マニュアルも整備している。	その後飲み忘れは発生していないが、継続して誤薬事故が起こらないように努めることが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、音楽鑑賞、計算、絵を描く、編み物、等各自好きなことに取り組んでもらっている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はドライブを2回、あとはご家族と自宅に短時間帰る等の他 目の前の環境をいかし屋外へBBQを行った。また情緒不安定な利用者を希望の喫茶店へ連れていったこともあり	利用者は、体調の良い日に庭を散歩し、庭にある東屋でポットに入れたコーヒーやおやつを食べたり、バーベキューを楽しみながら、利用者同士会話を楽しんでいる。落ち着かない様子の利用者には、馴染みの喫茶店でコーヒーを飲みながら、心が癒せるよう支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないがおこずかいを預かり帳簿管理している(外出支援時などに使用)		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月 5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自発的に要望することはほとんどないが電話が家族からかかってきた時のサポートや定期的な広報誌で現状を伝えている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや広々とした配置、環境をいかして荷中はカーテンを開け景色を楽しんでもらっている。季節のディスプレイは行事委員と利用者で作成したりしている	クリスマスツリーやリース等季節のオブジェが飾られ、花壇や樹木が茂る庭や東屋が見渡せる居間には、ソファや椅子等があり、利用者は好みの椅子を専用として愛用している。テレビで出身地の民謡や沖縄芝居等を鑑賞している。隣のキッチンからは料理を作る香りや音が感じられ、家庭的な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の固定席を決めてゆったりと過ごしてもらっている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた毛布や家に飾ってあったもの、テレビ、写真など自由に持ち込んでもらっている	居室には、電動ベッド、クーラー、クローゼット、チェスト鏡、洗面台、ナースコールがあり、テレビと電話回線が整備されている。家族の写真や猫の陶器の置物が飾られ、テレビを持ち込んでいる利用者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	奥のトイレはカーテンで仕切り車いすでも自立して排泄が出来るようにしている 居室前に名前を書き迷子にならないようにしたりしている		